



▲ さつまいも収穫を通じて園児と交流する青年部



▲ 現地でキュウリの生育状況を確認

第6次中期計画・営農振興計画

平成28年度～30年度

3カ年の取組実践状況報告について (JA前橋市の自己改革の取り組み)



▲ 来場者にJAバンク商品をPR



▲ 産直ゆうあい館リニューアルオープンイベント



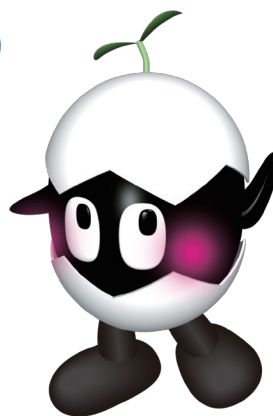
JA前橋市

群馬県前橋市富田町2400番地の1 TEL.027-261-3000

目次

● 第6次中期計画の概要	1
● 農業者の所得増大に向けた取り組み	4
● 農業生産拡大に向けた取り組み	7
● 地域の活性化に向けた取り組み	8
● 営農・経済事業改革の実践	8
● 総合事業を活かした部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ	9
● 事業体制の見直しと確立による 事業収益基盤の拡大と深耕	10
● 地域貢献に関する取り組み	11

第6次中期計画で取り組んだ
様々な活動をご報告します！



JA前橋市イメージキャラクター
ジャジャゴン

第6次中期計画・営農振興計画について

中期計画・営農振興計画とは、めざすJA前橋市の姿（長期ビジョン）の実現に向け、経営課題に取り組むための3カ年（第6次は平成28年度～30年度）の計画です。

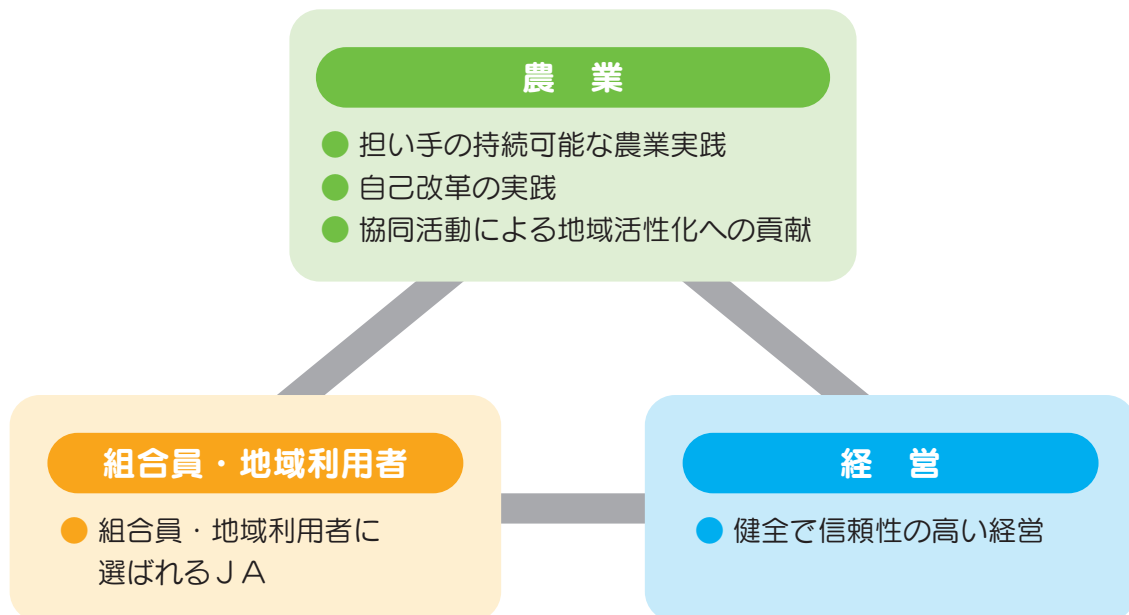
平成30年度は、第6次中期計画の最終年度として取り組みを加速させ、総仕上げを行いました。第7次中期計画も組合員の皆様からより高い評価を得られるよう役職員一丸となって取り組んでまいります。

自己改革としての取り組み

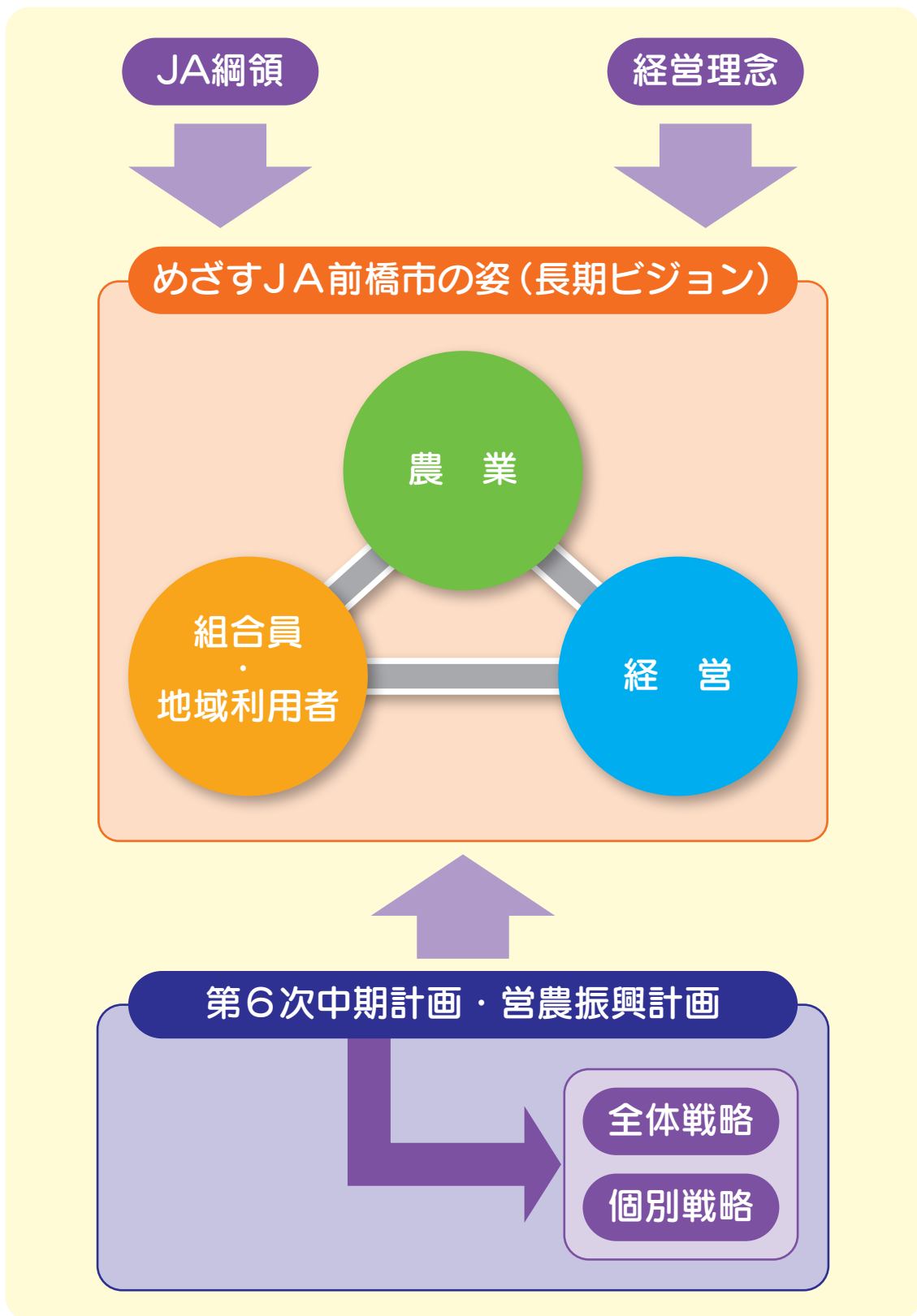
JAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、相互扶助の理念に基づき、消費者の皆様へ安全・安心な国産農畜産物をお届けし、農業者の所得増大・農業生産拡大・地域の活性化を実現するため、様々な自己改革に挑戦しています。

JA前橋市では、中期計画・営農振興計画に基づき、自己改革に取り組んでおり、第7次中期計画でも引き続き自己改革に取り組んでまいります。

めざすJA前橋市の姿（長期ビジョン）



第6次中期計画・営農振興計画の体系図



計画は、「農業」「組合員・地域利用者」「経営」の3つの柱で成り立っています。この柱の中にはそれぞれ戦略が掲げられており、この戦略に基づき様々な取り組みを実践しています。

第6次中期計画・営農振興計画の戦略構造

農業

全体戦略	個別戦略
農業者の所得増大に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 農畜産物の生産振興 ② 販売機能の強化 ③ 地産地消の強化 ④ 農業経営管理の支援 ⑤ 経営コスト低減への取り組み
農業生産拡大に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 担い手経営体の育成支援 ② 農地の有効活用への取り組み ③ 担い手の労働力軽減への支援 ④ 営農支援体制の機能強化 ⑤ 農畜産物の生産拡大支援
地域の活性化に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 組合員組織の活性化 ② 食農教育の拡大
営農・経済事業改革の実践	<ul style="list-style-type: none"> ① 営農エリア化構想 ② 共同乾燥調製施設の再編

組合員・地域利用者

全体戦略	個別戦略
総合事業を活かした部門間の情報共有と発信による利用者へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ① 共済相談窓口併設のローンセンターの新設 ② 企業・取引業者・系統関連団体への推進体制の確立 ③ 重層訪問活動による顧客満足度(CS)の向上 ④ 相続相談対応部署の設置

経営

全体戦略	個別戦略
事業体制の見直しと確立による事業収益基盤の拡大と深耕	<ul style="list-style-type: none"> ① 支所機能等の見直しと営業力強化による収益拡大 ② 収益構造の抜本的な見直しによる収益基盤の拡充 ③ 長期ビジョンの実現に向けた司令塔機能の強化 ④ 職員資質を高める事による活力ある職場環境づくりと利用者満足度の向上

農業者の所得増大に向けた取り組み

「匠の技」の伝承 「農家手取り最大化」プログラムの導入

取組期間	
28年度	—
29年度	●
30年度	●

農家手取り最大化プログラム導入による、出向く営農指導により担い手等への「肥料・農薬最適化」の提案と「匠の技伝承」を行い、経営改善に努めています。

また、農業経営システムによる生産販売システムの活用を拡大し、経営から生産・販売までの一括した営農指導体制の構築を進めています。



▲ 生産者と職員によるグループワーク

プログラムについて

農家に対する提案活動や篤農家（匠）の技の伝承などを通じ、農家手取り最大化に向けた取り組みを加速させるプログラム。

- 1 農家手取り最大化に向けて生産者に出向く営農渉外活動を促進するための「提案書」や「ツール」を用意。
- 2 実践する過程で「研修会」や「ワイガヤ（職員同士学び合いの会）」「生産者への提案活動」を通じ、営農課長や営農渉外の人材育成を促進。

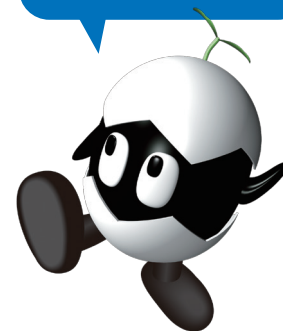
農家の技術支援 各エリアで栽培講習会等開催

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

J A前橋市各種支援事業等の有効活用推進の実践と、エリアごとの栽培講習会・現地講習会を開催しました。これら栽培技術支援の実施により、J A前橋市の重点作物を中心に生産拡大を図りました。



土壌分析研修会・農業研修会を6回実施し（30年度）、職員の知識向上にも努めました。



経営コスト低減 生産資材価格の低減

取組期間

28年度 ●

29年度 ●

30年度 ●

経営コスト低減を図るため、量販店等の価格調査結果をもとに仕入れ業者と交渉を行い、生産資材を中心に多品目の価格低減や仕入れ方法の見直（大量仕入）による肥料6品目の価格を3～5%低減しました。

また、肥料共同購入運動の実施による組合員への供給価格低減に努めました。

畜産関係の生産資材価格の取り組みとして、畜産経営を行う上で、飼料代金の低減は必要不可欠であることから、飼料メーカーと価格面や配送に関すること、また飼養管理に関することなどの協議を行いました。今後も継続的に行ってまいります。

肥料共同購入運動における価格引き下げに向けた4つの取り組み

- ① 銘柄の絞り込み（銘柄集約）
- ② メーカーの絞り込み（価格の徹底比較）
- ③ 購買数量の事前確定（組合員の事前予約制）
- ④ 運動参加者の拡大（JA利用率の向上）

各地で前橋産農畜産物フェアを開催

取組期間

28年度 ●

29年度 ●

30年度 ●

前橋産農畜産物フェアを量販店で積極的に開催し、消費者へ「安全・安心」な前橋産農畜産物のPR活動を展開してきました。

また、JA常勤役員によるトップセールスや市場関係者及び実需者との意見交換会を開催し、前橋産農畜産物の優先的取扱や新規取引拡大のためプレゼンを実施しました。

さらに、JA間連携取引を実施し、県外JAの直売所へ出荷を開始しました。

開催した主なフェア等

- 国産農畜産物商談会
- 淀橋市場のトップセールス
- アグリフード
- 横浜丸中青果株のトップセールス
- みのりみのるマルシェ（29年度）



▲ 前橋産農畜産物をPR

生産者の所得増大へ繋げる産直ゆうあい館リニューアル

取組期間

28年度 -

29年度 ●

30年度 ●

JA前橋市産直ゆうあい館は、既存施設の増築を行い、平成30年7月にリニューアルオープンしました。ゆうあい館のリニューアルに伴い、出荷生産物量の増加による生産者の売上増加や前橋産農畜産物の認知度向上のため、様々なイベントを開催しました。



▲ 増築後ゆうあい館外観（増築後面積875㎡）

ブランド力で上州牛をPR 「上州牛まえばし」ブランドの確立

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

上州牛をはじめとした前橋産農畜産物の消費拡大、地産地消を促進することを目的に、「上州牛まえばし」のブランド化に取り組みました。その結果、平成30年2月28日に前橋市の「赤城の恵ブランド」に認証されました。今後、ブランド化された「上州牛まえばし」のPRを積極的に行い、前橋産農畜産物の消費拡大、地産地消の促進に努めてまいります。



▲「赤城の恵」ブランド認証「上州牛まえばし」

上州牛まえばしの紹介

上州牛まえばしは、JA前橋市肉牛肥育部会員が丹精込めて育てた牛の脂肪（サシ）に多く含まれている「オレイン酸」に着目し、一頭ごとに含有量を測定して45%以上を認定としている。

「オレイン酸」には血中の中性脂肪やコレステロール量の調整をする働きがあり、脂肪の融点（口に入れた時に脂肪が溶ける温度）が低くなり、口どけが良く柔らかな食感を堪能できる。

地産地消の推進 前橋産農畜産物使用商品開発の取り組み

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

地産地消を図ることを目的に、まえばし産牛肉・豚肉を使用した弁当の販売、まえばし麦豚と前橋産の野菜・大島梨を使用したレトルトカレーを商品化し、ゆうあい館等で販売を開始しました。引き続き販路拡大へ向けた取り組みを行ってまいります。



導入計画で効率化 組合員ニーズに沿った素畜購買

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

畜種ごとに導入頭数の計画を立て生産振興に取り組んだ結果、ほぼ計画通りの導入が図られました。今後も畜産農家のニーズに沿った導入を行ってまいります。

担い手の労働力軽減と生産拡大へ きゅうり・なす選果場新設・イオンメーターの導入

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

J A前橋市管内のきゅうり・なす販売高15%増加及び担い手等の労働力軽減による生産拡大を図るため、きゅうり・なす選果場を新設しました。また、樹液診断機（イオンメーター）を導入し、栽培技術支援を実施しました。

育苗関連では、水稻育苗センター・野菜育苗センターの利用推進の実施や良質苗の供給による担い手労働力軽減に努めました。



▲ 選果場の外観



▲ 開所式の施設見学



▲ 選果作業の様子

複合経営の 生産振興

取組期間	
28年度	—
29年度	—
30年度	●

集落営農組織へ、需要の増えている加工野菜を中心とした複合経営の生産振興を図りました。

行政と連携 防疫支援の実施

取組期間	
28年度	—
29年度	—
30年度	●

肉豚の疾病（豚コレラ等）対策として、行政と連携を図りながら消毒資材の配布を実施しました。家畜防疫の観点から引き続き消毒の徹底等の注意喚起を図ります。

女性組織の仲間づくり 女性大学の開校

取組期間

28年度 ●

29年度 ●

30年度 ●

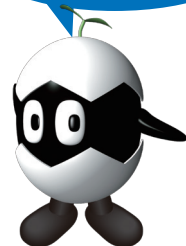
女性組織の活動支援では、平成28年度にJ A前橋市女性大学を開校しました。手芸講習会をはじめとした各種講習会を通じた女性部活動・J A事業への理解促進活動等により、女性組織の活性化が図れました。

第1期生については平成30年7月に卒業し、8月には第2期生が入学しました。今後もこの活動を通じて、女性部活動への理解の醸成、女性組織の活性化を図ってまいります。



▲ みそ作りに精を出す女子大学生

女性が楽しめる
カリキュラムに
なっています。



「食」と「農」の大切さを次世代へ 食農教育の取り組み

取組期間

28年度 ●

29年度 ●

30年度 ●

青年部、女性協、各支所にて地元のこども達と一緒にサツマイモの定植、かぶやジャガイモの収穫、田植え等を行いました。今後も引続きこのような取り組みを継続し、「食」と「農」の大切さを伝えてまいります。



▲ 園児へかぶの収穫を行う青年部



▲ 女性協と園児と一緒にサツマイモ苗を植え付け

営農・経済事業改革の実践

支所の垣根を越える 営農エリア化構想

取組期間

28年度 ●

29年度 ●

30年度 ●

営農エリア化では、重点8品目を中心とした栽培推進及び栽培講習会を延べ36回開催し、栽培技術支援の実施及び支所の垣根を越えた生産者交流等による情報の共有を図りました。

また、J A前橋市支援事業を活用した推進を行い、野菜作付604aの面積拡大となりました。

**野菜作付面積
604a生産拡大!!**

総合事業を活かした部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ

ローンセンター新設による 新規利用者拡大への取り組み

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

生活メインバンク機能強化として、平成30年4月に開所したローンセンターによる住宅ローンを中心とした融資強化に取り組んだ結果、43億70百万円の新規実行を行い、次世代層の新規利用者拡大を図りました。

**住宅ローン新規実行金額
43億70百万円**

部門連携による農業金融施策のPRで 地域農業の活性化

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

農業金融サービス強化を最重点項目として位置づけ、営農・畜産部門との部門間連携により農業メイン強化先への全戸訪問による資金ニーズの把握と相談機能の充実に努め、農業融資6億21百万円の新規実行を行いました。

**農業融資新規実行
6億21百万円**

顧客満足度(CS)の向上へ 「JA前橋市共済契約者の集い」参加対象者の拡充

取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

重層訪問活動による顧客満足度(CS)の向上では、平成28年度より「JA前橋市共済契約者の集い」の参加対象者を新規契約者だけでなく、大口保有契約世帯に拡充しました。平成30年度は共済契約者の集い「小林幸子歌謡ショー」を開催し、3,020名の参加をいただきCS向上に繋がられました。



▲ 多くの契約者が歌謡ショーに参加

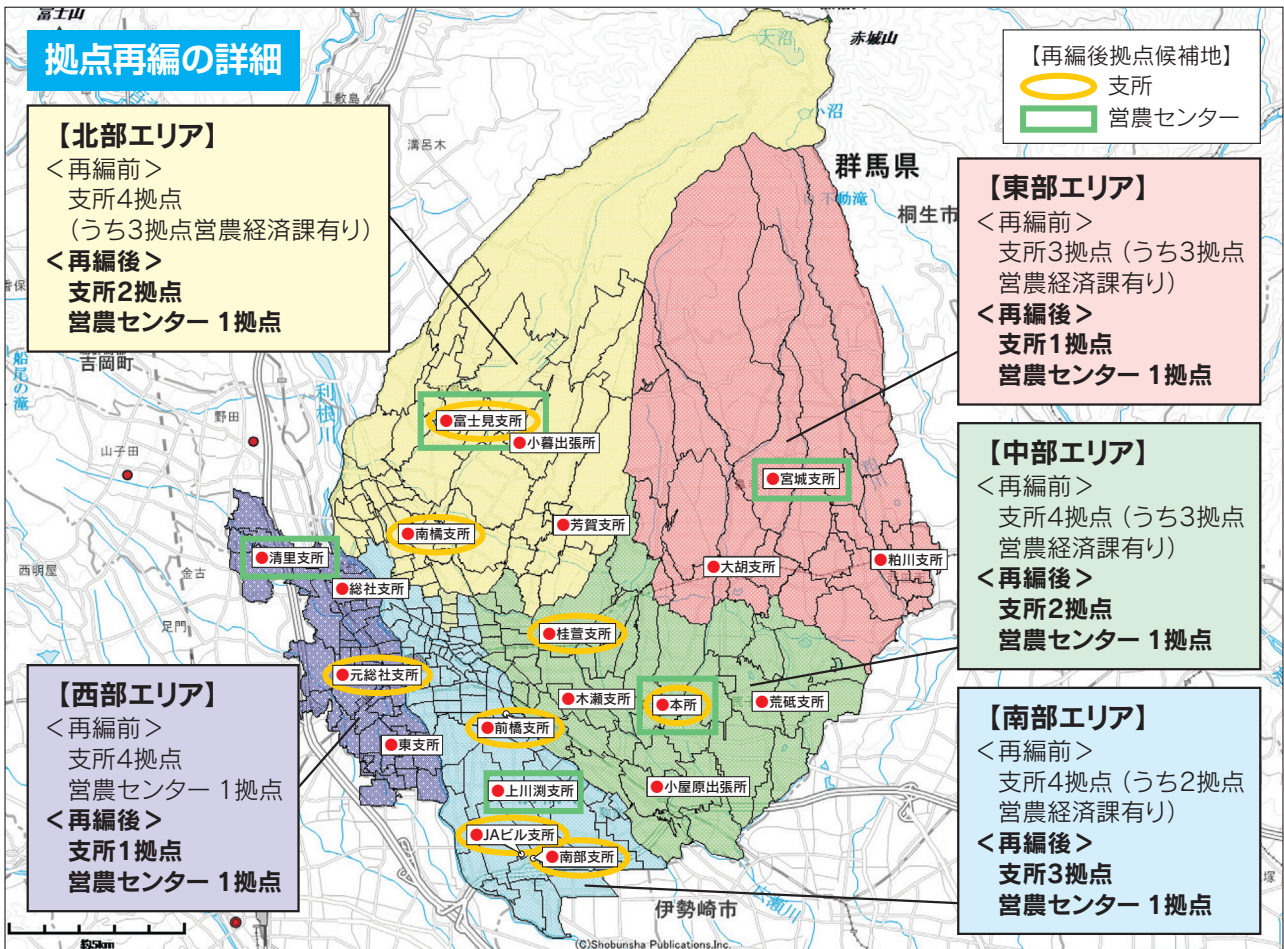
事業体制の見直しと確立による 事業収益基盤の拡大と深耕

支所・営農施設再編計画 地域組合員・地域利用者に貢献するために

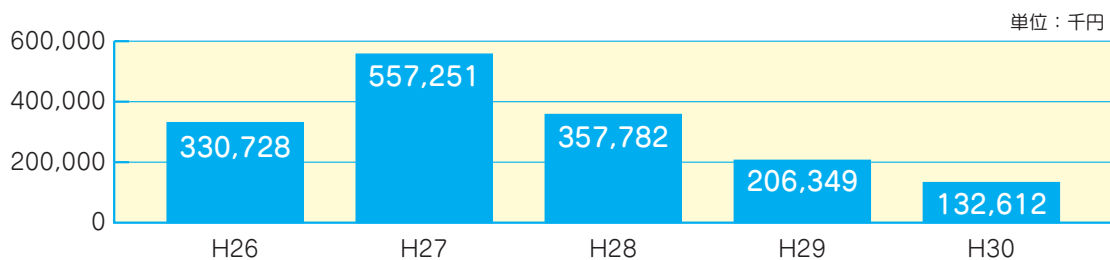
取組期間	
28年度	●
29年度	●
30年度	●

経営基盤の安定化、更にはその先にある地域農業・地域利用者に貢献することを目的として、支所・営農施設再編計画を策定しました。

計画を着実に実践することにより、当面の課題である経営基盤の安定化に努めてまいります。



当期剰余金の推移



地域貢献に関する取り組み

新嘗祭に供えられる 献穀粟の栽培並びに献上

宮城地区粟の献穀実行委員会は、「粟の献穀
抜穂祭（あわのけんこくぬきぼさい）」を開催し、山本龍前橋市長や大塚隆夫JA組合長らが見守る中、農耕作業の衣装に身を包んだ地域の小学生が皇居に献穀する粟を刈り取りました。



▲ 黄金色の粟を刈り取る子ども達

群馬県内企業で快挙 消防団協力事業所に認定

JA前橋市は、前橋市から地域の消防団活動に積極的に協力しているとして、総務省消防庁による「消防団協力事業所」に認定されました。

認定に伴い、「消防団協力事業所表示証」が交付されました。



▲ JA前橋市所属の消防団員及びJA役員

1支所1地域協同活動

JA前橋市では、組合員や地域住民との共生を図るために、「1支所1地域協同活動」に取り組んでいます。この活動を通じて、明るい地域づくりに貢献しています。



▲ 南部支所グラウンドゴルフ大会を開催（南部支所）



▲ 地元のまつりで新鮮野菜を販売（芳賀支所）



▲ 支所女性部と協力して地元文化祭への参加（東支所）



▲ 田植え体験（富士見支所）

[JA前橋市キャッチコピー]

笑顔と信頼 広げよう「ありがとう」の気持ち



みんなのよい食プロジェクト

JAグループは今、「みんなのよい食プロジェクト」を推進中。

「みんなのよい食プロジェクト」とは、安全で品質の高い農畜産物の生産や地産地消、食農教育など、いろいろな事業を通して生産者と消費者の絆を深める取り組みです。



耕そう、大地と地域の未来。